

## 「輸送量の急減と急回復が引き起こした運賃の急騰」

(RWI\ISL「世界コンテナ取扱量」ほか)

オールニアポン・トセシマヤハマハム

金融商品部 次長 / 坂根 学

今回で、2020年にコロナ禍

落ち込みが長期間にわたり、ハ

移していく。

からこれまで回復した海運市況

コラク前の水準に戻るまで約2

年を要した。

と、それに伴う運賃の高騰について見ていただきたい。世界のコンテナ数量を表す、RWI\ISL 指数と世界的な輸送力ハカルタントのDrewry オーネーを用いる。

感染抑制を目的とした渡航制

限や外出規制が多く、国々で実

施されたことと、人の移動だけ

ではなく、モノの移動量も一時的に大きく減退した。生産活動や

物流の動きが止められ、カブコ

イチヨーの途絶によって、物資不足が生じた。これが供給面のダメージに加え、需要の落ち込みもあり、20年5月には世界のコンテナ船による輸送量は

前年比マイナス8.5%まで減少

した（図表）。

コロナの感染拡大で荷動きが鈍

る」とを察知し、大規模な減便に踏み切ったのである。

世界のコンテナ船による輸送量が大きく減少したのは、08年のコームハムック時も同様である。当時は、半年ほどの時間

をかけて前年比マイナス

18.8%まで減少した。景気の

一方、コロナ禍では、一時的に大きく減少した輸送量が、昨

年の夏場以降には急回復を見せ

始め、あつとの間にコロナ前

の水準を上回った。人の移動の

制限・停滞が継続した一方で、

モノの動きが早期に活発化した

背景には、コロナ禍での「巣

わら」に伴う消費の変化が背景

にあると考えられる。

特に米国では在宅勤務の長期化や株高に加えて住宅金利の低下もあり、都心部から郊外の一旦建てに移り住む動きが顕著に現れる。住宅着工件数や中古住宅販売件数などは、10年ぶりの高水準である。それに伴って家具・家電・音響機器などの買い替え需要も堅調だったほか、在宅勤務用のパソコン周辺機器への需要も強かつたとい

う、コンテナ取扱量の増加要因となつた。なお、鉄鉱石や石炭、大豆、トウモロコシなどの貨物

を梱包せずに輸送する「裸

船」による取扱量や運賃も、中国

経済の回復を背景に高水準で推

出所)RWI/ISL, Drewry

